

第一部：使徒的信仰 ― その教え、伝達、そして受容

[7]

新約聖書における教会の誕生の記述において、三位一体の三位格それぞれに役割が与えられており、それは他の二つの位格の役割とは明確に区別され、かつ不可分です。父なる神には、世界の創造に先立って、私たちが永遠の御言葉と一つに結ばれた神の養子なる子として選ばれるという恵み深い目的があります。教会設立の実際の働きは、子なる神と聖霊に帰せられます。子なる神は、贖いの行為によって教会を設立します。聖霊は、教会の聖化の原理として、子なる神と共に教会を設立します。神の二つの使命、すなわち御子と御霊の御遣わしは、三位一体における二つの永遠の歩みを、私たちの時間世界において延長したものです。それによって人間と神との間にもたらされる、個人と集団の両方における新しい関係こそが、新約聖書が教会と呼ぶものに他なりません。

[8]

この二つの神聖な使命の不可分な関係は、教会生活のあらゆる側面、すなわち信仰告白、教会員の弟子としての生き方、そして教会員同士の交わりを律する規範の至るところに見受けられます。聖霊こそが、御子において啓示された真理を告白し、御父の養子として御子と結ばれ、キリストの唯一の体において愛のうちに生きることを、私たちに可能にしてくださるのです。

I みことばと教会

[9]

「神は、昔、預言者たちによって、先祖たちに、多くの方法で語られました。しかし、この終わりの日に、御子によって私たちに語られました。神は御子を万物の相続者と定め、また御子によって世界を創造されました。」（ヘブライ人への手紙 1:1-2）神の教会は、神と同じ創造と自己啓示の働きによって創造されました。

御子において、神は私たちに明確に語られました。御子は天の父の完全な表現であるため、神の言葉と呼ばれています（ヨハネ 1:1-18）。御子は神の目的を知らせ、それを遂行します。神の言葉は今や肉となり、言葉と行いは本質的に結びついています。御子の言葉は効果を発揮し、御子の行いは意味を持ちます。

[10]

キリストの十字架と復活こそが、キリストを私たちに最も深く啓示し、キリストの目的を成し遂げ、キリストを私たちの救い主とされたのです。使徒たちがキリストを宣べ伝えたとき、彼らはキリストが十字架につけられて復活したことを宣言しました。

今日、教会がキリストを宣べ伝えるときも、同じ宣言がなされています。神の言葉であるキリストは、今もなお私たちへの同じメッセージと、私たちを救う同じ恵みの賜物を持っておられます。

[11]

使徒の使命、すなわち使徒たちに課された使命は、イエス・キリストのメッセージを自

分たちの世代とすべての後世に伝えることであり、まさに御言葉への奉仕です。キリストの人格、その教え、そして私たちのための御業。使徒たちはこれらすべてについて証しました。なぜなら、これらすべては神の御言葉だからです。

[12]

使徒たちによって福音が宣べ伝えられるにつれ、教会は召集され、築き上げられました。御言葉への奉仕は彼らの最優先の責任であり（使徒言行録 6:2-4）、キリストご自身と、信仰によってキリストと一体となった共同体への奉仕でした（使徒言行録 6:7、12:24、19:20）。

[13]

教会を深く理解するには、教会を創造し、教会を今ある姿に造り変え続ける神の言葉について熟考することから始めなければなりません。キリストにおいて語られた言葉は、私たちの応答を呼び起こします。このように、教会は主によって始められた対話によって支えられています。御言葉の力によってすべての世界を創造された神は、親切にも厳しく、優しくも雷鳴のような警告をもって、律法と愛をもって、神の民への宣言として、そして一人ひとりへの心と心との対話として、私たちに語りかけてくださいます。約束が成就したメシア的共同体を集めることによって、キリストはご自身をメシアとして知らしめました。群れを召して従わせることによって、キリストはご自身が良き羊飼いであることを示されました。

[14]

使徒的使命の結果として教会がどのようなものになるべきかは、教会の最初の誕生において見分けられます。そして、その誕生を見分けるには、キリストが行いと言葉によって、どれほど弟子たちをご自身との交わりに導いたかを認識しなければなりません。

[15]

キリストは、他の聴衆や、最初の弟子となった人々を通して後の世代に語りかけることに満足されました。キリストが弟子たちに注いだこの程度の信頼だけが、神が世界と、ご自身のかたちに造られた人々に対して自由に語りかけることに匹敵するものでした。すべての人を御自身に引き寄せるために、御子は十字架上で亡くなりました。御子は御自身の言葉と御自身を私たちに与え、私たちが理解するのを辛抱強く待っておられます。他のいかなる方法も、私たちが御自身を愛するように導くという御自身の目的を挫折させてしまったでしょう。この救いの目的を果たすために、キリストは御言葉の再創造の力が明らかである教会を召し、人々を御自身のいのちを分かち合い、互いに調和のとれた関係の中で生きることができる共同体へと作り変えられました。このように、教会は神の言葉が語られ、聞かれ、応答され、告白される場所なのです（ローマ 10:8-17）。預言者たちは、神の律法は石板に書かれたものではなく、心に書き記され、心に受け入れられ、心で認識される律法となるべきだと言いました。それは私たちの第二の性質となるべきでした（エレミヤ書 31:31-34）。

[16]

使徒たちが受け継いだ聖伝自体が、神と人間との間の途切れることのない交わりの過

程を継続させています。この過程を維持し深めるために、言語的、儀式的、芸術的、社会的、そして憲法的など、あらゆる人的資源が活用されています。聖書の書き記された言葉は、その永遠の規範です。洗礼と聖餐の秘跡を通して、教会の誕生の出来事の記憶が保存されています。

生ける言葉は、人々が神と語り合い、互いに信仰を語る生きた共同体を創られました。牧者と教師の導きのもと、教会はあらゆる世代と交わり続け、自らのアイデンティティとメッセージを保ち、日々従順において新たにされています。

[17]

生ける言葉を通して、キリストが私たちのためになされた生涯の行為を思い起こし、新たにすることによって、キリストの歴史は私たちの歴史となります。私たちは新たな誕生を祝い、赦され、強められ、癒され、互いに結ばれ、奉仕への召命を見出し、キリストの死と生きた勝利の力を通して神に感謝します。地上での生涯において、御言葉は私たちのために御自身の行いによって御言葉を実証されました。それは今日でも同じです。

[18]

教会の成長は、神の言葉を絶えず聞き、吸収することによってもたらされます。私たちは、神の言葉を聞いていることを確認するために、私たちより先に神の言葉を聞き、従ってきた人々との交わりを保ちます。しかし、他の世代の人々が言ったり行ったりしたことを単に繰り返すだけでは救われません。キリストと使徒たちの生きた伝統を継承するためには、私たちは自ら言葉を伝え、自ら行動し、そして自らの心と精神を刷新することによって変革されなければなりません。信仰は受け継がれなければなりません。

[19]

教会は、いつの時代、どんな場所においても、神の言葉の驚くべき業を思い起こしながら生き、歩みます。神の創造された世界において、そして神が私たちと共に築いておられる歴史において、見聞きしたすべてのことを思い起こしながら。しかし、私たちは過去に生きているわけではありません。記憶は、今日私たちのもとの来られる主を認識することを可能にします。私たちの人生の出来事における主の存在は、主の言葉が真実であることを私たちに証明します。今日、私たちのためになされた主の業は、私たちが賛美の言葉を唱え、奉仕の行いをするのを可能にし、それによって神に栄光が帰されるのです。

[20]

しかし、今日私たちと共にある神の言葉は、使徒たちが告げられたように、私たちの物語の次に何が起こるかを告げてはいません。福音伝承は未来を見据えているので、私たちは希望のうちに生きています。そして、キリスト者の希望は、神の約束を主張し、現在に完全に身を捧げることを可能にする力なのです。私たちは、その記憶を大切にし、その存在を知っている方に向かって歩んでいることを知っています。生きた言葉で信仰を告白することによって、私たちはキリストと共に死ぬこと、キリストに私たちの命を隠すことを学びます。そうすれば、主が現れるとき、私たちも栄光のうちに知られるようになるのです。

[21]

結論として、私たちは、エキュメニカルな和解の探求が、聖書と聖伝が概念的に分離した後、それらを再び統合することの難しさをあまりにも明白に明らかにしたことを思い起こします。聖書は聖伝の中で書かれていますが、聖書は聖伝の規範です。一方は他方の観点からのみ理解可能です。私たちは、この問題に関連して生じるエキュメニカルな問題のすべてをここで解決したと主張するものではありません。私たちが試みたのは、今日のキリスト教徒がどのようにして、すべての時代のキリスト教徒と共に、昨日も今日も、そして永遠に同じイエス・キリストへの唯一の真の信仰を告白できるかを自問することです。

II. 聖霊と教会

[22]

新約聖書において、主権を持ち、命を与える聖霊の働きは、御言葉の働きと密接に結びついています。神が御言葉を通してなさることは、聖霊においてなされます。そのため、同じ効果はしばしば御言葉、聖霊、あるいはその両方に帰せられます。すべての場合において、神の働きが認識されるのです。

[23]

このように、聖霊は新約聖書の物語において、受胎告知の頃から既に現れています。天使はマリアに、「聖霊が彼女の上に臨み、いと高き方の力が彼女を覆う」と保証します（ルカ 1:35）。

それゆえ、彼女の息子は「いと高き方の子」と呼ばれ、聖霊に導かれた預言者シメオンによって、神が救いを備えてくださった方として認められます（2:30）。

[24]

イエスの宣教活動はヨハネによる洗礼から始まり、聖霊は鳩の姿でイエスの上に降り、荒れ野へと導きます。そこでイエスは、父の御心に従わない方法でこの宣教活動を行うようにという悪魔の誘惑を退けます（マルコ 1:10、3:16）。

ナザレにおいて、イエスはイザヤ書 61 章 1-2 節の預言（「主の霊がわたしの上にある…」）が今、ご自身において成就したと断言されます（ルカ 4:18-21）。ルカはイエスの宣教活動の中心に、聖霊の注ぎの約束を置いています（ルカ 11:13）。

[25]

ヨハネによる福音書は、聖霊の約束と臨在を特に強調しています。バプテスマのヨハネは、イエスを「聖霊によってバプテスマを授ける」（ヨハネ 1:33）方としています。

真の礼拝は「霊と真理とによって」行われます（ヨハネ 4:23）。

約束された聖霊は、弁護者（パラクレート）であり、真理の霊です（14:15-17、15:26）。

この約束は、イエスが十字架上で栄光を受けたときに成就します（7:37-39）。

[26]

聖霊の流出は、新約聖書の中で様々な形で表現されています。ヨハネによれば、聖霊は復活の夜に復活したキリストから与えられ、弟子たちに罪を赦し、また罪を犯さない力を与えます（20:22-23）。ルカによる福音書（使徒行伝 2:1-11）では、聖霊はペンテコステ

の日に与えられ、聖霊の臨在は驚くべき方法で現れます。使徒行伝では、聖霊の現れは、バプテスマを受けたことの証拠とされています。バプテスマを受けた者は、聖霊（証印）を受けなければなりません。聖霊は、ユダヤ人と異邦人を問わず、「御言葉を聞く」すべての人に与えられます（使徒行伝 10:45）。聖霊は、パウロの宣教旅行を導きます（使徒行伝 13:2-5）。

[27]

聖霊は、コイノニア（第一コリント 12:1-11）の益のために、すべての人に賜物を分け与えます。聖霊は、キリストにおける新しい命の内なる力です。信者はキリストにあって、キリストと共にいるので、聖霊を受け、聖霊の中にいます。

賜物には多様性がありますが、それらはその源である唯一の聖霊と、その目的であるコイノニアにおいて一つに結ばれています。

しかし、聖霊は「御心のままに吹く」ので、信者は人類における聖霊の働きを制限することはできません。

[28]

三位一体の第三位格である聖霊は、非人格的な力としてではなく、信じるようになる人々を自ら鼓舞し、導きます。聖霊は未信者を探し求め、しばしば神秘的な方法で彼らに働きかけ、彼らの心を変えます。聖霊は未信者に御言葉が宣べ伝えられる道を備え、彼らが信仰をもって応答し、神の救いの恵みを知ることができるようにします。こうして聖霊は教会の一体性を創造し、維持し、多くの人々を一致させ、キリストの体である肢体をその頭に結び合わせます。信者は互いを体である肢体として認め、言葉と聖餐の奉仕に共にあずかり、聖餐にあずかります。そこで彼らは、キリストを通して、そしてキリストと共に、聖霊において、父なる神への賛美と感謝のいけにえを捧げます。

[29]

聖霊が、キリストへの忠実なる信仰を告白する共同体に宿るとき、信者はキリストと御父が彼らの間に、また彼らの内に臨在していることに気づきます。神は信者の内に宿り、信者も神の内に宿り、神の内に「生き、動き、存在する」のです。この霊的な臨在は、純粹で、値しない賜物です。信者を聖性へと招き、キリストの正義へと導き、その中に保ち、完成への道へと導き、聖霊の多くの賜物を通して行動する力を与えます。信者が聖霊の賜物を共同体の善と福音の伝播のために用いるとき、彼らは聖霊の実も受けます（ガラテヤ 5:22-23）。それは教会の生活を平和と喜びのうちに築き上げます。

[30]

しかし、賜物は軽視され、乱用されることがあります。信者たちはその罪深さゆえに、聖霊に抵抗し、聖霊を悲しませてしまうことがあります。しかし、聖霊は弁護者、つまり弁護者でもあり、彼らのために弁護し、悔い改め、赦し、そして和解をもたらします。

[31]

聖霊は弟子たちに主のメッセージと言葉を思い起こさせ、キリストの生と死と復活という救いの出来事にあずかれるようにしてくださいます。聖霊は主の晩餐において招かれ、説教と宣教において、聞く者の心と精神を動かし、彼らを真理の充満へと導くのは聖霊です。聖霊は時代を超えて教会の中に常に臨在し、信者が「新しいペンテコステ」を生きているという印象を受ける、豊かな注ぎの瞬間によって活気づけられます。このように聖霊

は教会が聖書の言葉を認識するように導き、聖書が教会の命の文書と憲章となるようにされます。聖霊は、神の民とその奉仕者たちに、聖書の言葉を理解し、解釈し、言葉で伝え、説明し、信仰をもって聞き、受け入れる力を与えます。必要に応じて、同じ聖霊は教会を自己批判へと導き、キリストの記憶にさらに忠実に従い、改革と刷新へと導きます。こうして聖霊は信者の心に福音を書き記し、この心の福音は、コイノニアの成員たちに、信じる言葉によって賛美と感謝の祈りを形づくるよう促します。このように、聖霊は共同体の記憶を形づくり、豊かにし続けます。

[32]

聖霊の力と臨在は、信者を恵みから恵みへと導きます。聖霊が彼らを導き、キリストの記憶を思い起こさせ、その記念にあずかり、キリストを今ここにある現実として体験させるとき、彼らは自分自身と全被造物に対する神の目的に開かれます。聖霊は彼らに、神のすべての被造物の幸福のために祈り、努力するよう促し、それによって神が彼らに与えてくださった生息地を守り、促進するよう促します。神のみが知る方法で、聖霊は福音を聞いたことも信じたこともない人々の中にも臨在し、活動しています。キリスト教徒は、神の究極の目的に従って世界を変える神の隠れた働きを信じます。彼らは、神の救いの力が働いていることを見極めようと努めます。聖霊は、彼らが神のすべての約束が成就するのを見たい、そして神の国の到来を祈りたいと強く願うように促します。同じ聖霊は、彼らに「世と肉と悪魔」に象徴される障害と悪は、神の定められた時に神の力によって克服されるという確信を与えます。しかし、聖霊によって養われるキリスト教の希望は、この地上と現世よりもさらに先を見据えています。それは、神があらゆる時代、あらゆる国籍、あらゆる言語の聖徒たちの間で統治される永遠の御国を待ち望んでいます。この最終的な変革において、聖霊は地上の教会の試練と聖徒たちの苦しみを終わらせ、選民を、父がご自身を愛する者たちのために取っておかれた栄光へと導くでしょう（コリント人への手紙一 2:9）。

III. キリスト教信仰の模範

[33]

ヨハネによる福音書の中で、イエスは「わたしは道であり、真理であり、命である」と言い、さらに、ご自身が去られるとしても、ご自身を証しする御霊を残すと断言しています。御霊は私たちに罪を悟らせ、真理へと導いてくださいます。真理は常にキリストのものである以上、信仰は過去と連続しています。このように、聖霊は信者たちにあらゆる世代においてキリストを告白する力を与え、教会はこの聖徒たちの交わりの中に留まります。キリストと御霊におけるこの永続こそが、教会にそのアイデンティティと自己理解を与え、世界に宣べ伝えるべき福音の中に留まるもののなのです。

[34]

教会は各世代において、初期のキリスト教徒がそれぞれの時代と場所において神の真理を表現しようと努めてきた歴史を受け継いでいます。そしてその歴史において、信仰の

最も初期の解明を与えた神学者たちは重要な位置を占めています。教会はまた、神が将来、信仰の証人を備えてくださることを知っていますが、現在の教会は今、みことばと聖霊に対して特別な責任を負っています。

[35]

過去の歴史と現在の経験から、キリストの真理の霊は継続と変化の原動力において働くことが分かっています。聖霊は福音の真理を様々な方法で私たちに伝えます。聖霊は決して変わることはありませんが、その働き方は信者のグループごとに異なるからです。聖霊は、たとえ犠牲を伴う弟子としての歩みを要求する時でさえ、慈しみ深く、前向きな方法で働きます。そして私たちは、聖霊を悲しませてはならないという戒めを受けています。むしろ、聖霊に協力しなければなりません。

[36]

では、どのような協力が求められているのでしょうか。聖霊が私たちをキリストに結びつける役割について言及し、聖イレネオは、神を通してのみ神を知ることができることを主張しました。

同じテーマを展開して、聖アタナシウスは、神の言葉が人間となったのは、私たちがある意味で神となるためであると主張しています。このように、私たちは聖霊に協力し、受肉の神秘における神のこの自己犠牲を自らに受け入れます。聖書の証言によれば、これは神が永遠の昔から人類の救いのために選んできた道です。したがって、福音のあらゆる秩序ある表現は、この神秘——キリストにおいて救う神の愛——を宣べ伝える試みであり、キリスト教信仰を識別し、記述しようとする私たちのあらゆる努力は、ここに焦点を置かなければなりません。福音の核心であり、信仰の核心は、贖罪において明らかにされた神の愛であるため、私たちの信条はすべて、私たちの救いであり、信仰の基盤であるキリストへの信仰から導き出されなければなりません。したがって、第二バチカン公会議が認めたように、「真理には、キリスト教信仰の基盤との関係において様々なものがあるため、秩序、すなわち『階層』が存在する」(『Unitatis redintegratio』11)。同様に、ウェスレーに倣ったメソジスト派は、教会の主要な教義の中に「信仰の類推」を認めています。

[37]

信じられる信仰は、特定の状況の中で信じられるものです。信仰の表現は、私たち以前の文化によって形作られ、私たちはそれを、私たちの時代と場所の言語で語ろうと努めます。インカルチュレーションは、言語であれ、その他の文化的表現であれ、文脈的なものが福音の超越的な真理によって変容されるときにのみ、信仰を真に伝えます。そうして、インカルチュレーションは、この文化に属する人々の人生を変革する効果的な手段となります。

信仰共同体によってなされる神についての肯定は、その構成員の生活における実現を求める、能動的な象徴です。したがって、キリスト教徒が典礼の場で信条を唱えるとき、彼らは単に一連の信仰を列挙する以上のことをしているのです。彼らは「キリストと共に神の中に隠されている命を持つ」(コロサイ 3:4) 偉大な集団と自らを同一視しているのです。

聖霊は教会に豊かな知覚と理解の賜物を与えてくださるので、信条の朗読は、あらゆる時代に信仰の多様性と豊かさを生み出します。「私たちは信じます」と唱えることで、教会のいのちは深まり、新たにされます。

[38]

カトリック教徒とメソジスト教徒の両方が典礼と教えにおいて用いるニケア信条は、キリスト教信仰の包括的かつ権威ある表明です。ジョン・ウェスレーは、ローマ・カトリック教徒への手紙の中で「真のプロテスタントの信仰」を要約し、ニケア信条を解説の根拠としました。ニケア信条として知られるこの信条の本文をここに引用するのは、この信条が、カトリック教徒とメソジスト教徒が既に共有している深い交わりを、真に真剣に受け止めるよう私たちに促しているからです。迷信と不信仰に深く影響されている世界において、この共通の信仰を宣言することは、感謝を捧げる機会となり、キリストにおける私たちの一致を深める刺激となるに違いありません。

ニケア信条

『私たちは、天地、見えるもの、見えないもの、すべてのものの創造主である、父なる唯一の神を信じます。私たちは、唯一の主、イエス・キリストを信じます。神の独り子、永遠に父から生まれた者、神から生まれた神、光から生まれた光、真の神から生まれた真の神、父と一体の存在から生まれた者、造られた者ではない者。彼によってすべてのものが造られました。彼は私たち人間のため、そして私たちの救いのために、天から降りて来られました。聖霊の力によって、処女マリアから受肉し、人となりました。私たちのために、ポンテオ・ピラトのもとで十字架につけられ、死に苦しみ、葬られました。三日目に、聖書のとおり復活し、天に昇り、父の右に座っておられます。彼は栄光のうちに再び来られ、生者と死者を裁かれます。彼の王国には終わりがありません。私たちは、父と子から出た主、命の与え主である聖霊を信じます。聖霊は父と子と共に礼拝され、栄光を受け、預言者を通して語られました。

私たちは、聖なる普遍の、唯一の使徒的教会を信じます。
私たちは、罪の赦しのための唯一の洗礼を認めます。
私たちは、死者の復活と、来世の命を待ち望みます。

アーメン。』

IV. キリスト教生活の規範

1. 新しい命の賜物

[39]

イエス・キリストへの信仰は、福音の真理に同意することを伴います。これらの真理を告白する時、私たちは神の息子、娘としての新たなアイデンティティをも告白するのです。私たちの心が福音の真理で満たされるにつれ、心は変えられ、その変化が新しい命をもた

らします。聖パウロは改宗者たちに「心を新たにしておえられなさい」（ローマ 12:2）と告げています。福音を聞き、それに応答することによって、心と精神の両方に決定的な変化が起こります。ですから、パウロは新しく改宗した人々のために神に祈り、「あなたがあらゆる霊的な知恵と理解力によって神の御心を知り、主にふさわしく、主に喜ばれる生活を送り、あらゆる善行において実を結び、神を知る知識において成長し、」（コロサイ 1:9-10）と祈ったのです。

[40]

キリストの死と復活を通して、聖霊によって父と和解する道が開かれました。信仰の秘跡である洗礼は、父が聖霊によってキリストを通して私たちに与えてくださる新しい命のしるしです。

キリストの死は私たちの生活における罪を死に至らしめ、罪と死の束縛から私たちを解放しました。古い命に取って代わる新しい命は愛の命です。それは聖霊によって私たちに伝えられる神の内なる命にあずかることです。

「神の愛は、私たちに与えられた聖霊によって、私たちの心に注がれています」（ローマ 5:5）。この愛は純粋な賜物であり、それによって私たちは神の内なる命へとますます深く引き込まれ、「アッバ、父よ」（ガラテヤ 4:6）と叫ぶことができるのです。それは他者中心であり、その範囲と範囲は無限で、全世界に向けられています。特に、貧しい人、弱い人、愛されていない人へと私たちを押し進めます。それは差別や区別のない愛です。なぜなら、キリストの働きによって、もはやユダヤ人もギリシャ人も、奴隷も自由人も、男も女もないからです（ガラテヤ 3:28）。

2. 新しい命への挑戦

[41]

この賜物は、召命であり、責任でもあります。パウロはコロサイ人に対し、彼らが死んで新しい命に復活したからこそ、依然として残っている古い生き方の特徴を捨て去らなければならないと告げています。彼らは「古い衣服を脱ぎ捨て、神に選ばれた民の衣服を着」なければなりません（コロサイ 3:12 参照）。クリスチャンが生活を変える義務は、神が彼らのためにしてくださったことに根ざし、その基盤の上に成り立っています。ジョン・ウェスレーが『クリスチャンの完全性についてのわかりやすい説明』の中で述べているように、少数の人々にとっては、変化はすぐに訪れます。しかし、ほとんどのクリスチャンにとって、古い生き方を捨て去り、新しい生き方を受け入れることは、愛において成熟するという長く苦しい過程を伴います。

それは費用のかかる旅であり、必然的に苦しみを伴います。なぜなら、キリスト教徒の生活様式は、キリストの死と復活の様式を反映するからです。パウロは、この成長を促し、養うことを常に心に留めていました。ですから、個人は、聖霊の力を通してキリストに与えられた神の救いの働きによって変えられるのです。しかし、個人に新しい命の賜物が与えられることは、新たな一致の原理となります。洗礼を受けた者は愛の命を共に分かち合い、この分かち合いは、教会であるコイノニドの重要な側面です。

3. 新しい命の交わり

[42]

信者はキリストへの忠誠によって、キリストが記憶される共同体（アナムネーシス）の一員となります。キリストが弟子たちに語った言葉は、ここでも関連しています。キリスト教徒は、他の人々との共同体において、キリストの兄弟、姉妹、母です（マルコ 3:31-35、マタイ 12:46-60、ルカ 8:19-21）。

[43]

初期のキリスト教徒たちは、他の人々と共同生活を送る共同体の一員でした。バベルの塔における不一致は、ペンテコステ以降の出来事によって覆されました（使徒言行録 2:44、4:32）。使徒言行録 2:42 には、彼らの共同生活における 4 つの基本要素、すなわち使徒の教えを聞くこと、交わり（コイノニア）、パンを裂くこと、そして祈りについて記されています。

[44]

主日の礼拝において、彼らは共に聖餐を執り行い、主の臨在と新たな恵みを体験しました。礼拝そのものにおいて、彼らの互いの関係の深遠な性質は、平和の交わり、そしてとりわけ聖餐において示されました。「私たちが裂くパンは、キリストのからだにあずかることではないでしょうか。パンは一つですから、私たちは大勢いても一つのからだなのです。皆、一つのパンを共に食べるのです。」（コリント人への第一の手紙 10:16-17）。聖餐は、キリスト教徒特有の生き方が示される中心であり続けています。

[45]

メソジスト派は聖書の説教を礼拝の中心的行為とみなすのに対し、カトリック教徒は聖餐をキリスト教生活の「中心であり、頂点」とみなす（第二バチカン公会議『司祭叙任式』5）と述べるのが通例である。この対比は過度に強調されるべきではない。メソジスト派の創始期において、ウェスレー派は当時の英国国教会の慣習よりもはるかに頻繁に聖餐を執り行うことを奨励し、実践した。そして近年、メソジスト派は聖餐の中心性を、カトリック教徒は聖書の説教の根本的な重要性をますます認識しつつある。

4. 新しい命の源

[46]

私たちは洗礼によって信仰共同体に迎え入れられ、家族や教会を通して信仰が伝えられ（「伝承」され）、そこで養われます。この「伝承」が行われなければ、私たちはキリスト教の信仰をほとんど受け取ることができません。それぞれの世代、それぞれの人が、信仰の生活を自ら求めなければなりません。私たちは、説教を聞くこと、日曜学校、要理教育、初聖体拝領、堅信礼、そして教会主催

の学校を通して、より明確な形で信仰を受けます。

キリスト教の信仰を持続的に成長させるには、聖書の学びと、聖書に基づく祈りに時間を費やすことが必要です。私たちの両方の伝統において、信仰は、その成長において重要な役割を果たす献身的な生活によって養われます。私たちの間で霊的生活が育まれてきた方法は数多くあります。例えば、キリスト教の家庭生活、メソジスト教会のクラス会(組会)、カトリック教会における様々な信徒の使徒職や刷新運動、黙想会の実践、エキュメニカルな家庭グループ、結婚生活向上のための講座などです。これらすべての状況において、「心は心と語り合う」(cor ad cor loquitur)のです。

5. 新しい命の実践

[47]

キリスト教の希望は、福音がすべての国々に宣べ伝えられ、人類がいつの日かキリストのもとに集められることです(マタイ 24:14; 28:19)。教会の使命の最も広い意味では、飢えた人に食べ物を与え、裸の人に衣服を与え、病人や囚人を訪問し、旅人を歓迎するという使命があります(マタイ 25:31-46)。これらの「慈善の業」は、最も広い意味でのキリスト教の使命に属し、カトリックとメソジストの協力は、この分野でしばしば大きな成功を収めてきました。特に、両教会は、人種、性別、階級を問わず、真のキリスト教共同体の形成に努めてきました。キリスト教に敵対的な地域では、宣教活動は困難を極め、福音への忠実さは大きな犠牲を伴うことが証明されています。ヘブル人への手紙にある、天から見守り、私たちに励ます聖徒たちの描写は、ここでも当てはまります(ヘブル 12:1)。

[48]

言葉による福音の宣教は、それぞれの世代の信者にとって不可欠な務めです。クリスチャンは、言葉だけでなく行いによって他の人々が神に栄光を帰すように、他の人々の前に光を輝かせようと努めるときにも証しをします(マタイ 5:16; ペトロ第一 2:12)。個人伝道は、共同体の使命に貢献し、新しい信者を生み出す上で極めて重要です。

V. キリスト教共同体の模範

[49]

父、子、聖霊という三位一体の神性の中に存在する真の関係は、創造の秩序ある生活の中に反映されており、信仰の目には、それらが神の民の共同生活のために確立し、可能にする模範において、さらに明確に示されます。

[50]

神の言葉が真に聞かれるたびに、教会は従順に自らの生活を形作ります。こうして生み出された模範は、今度は神の言葉を示す手段となります。個人がキリストによって癒され、作り変えられるように、彼らの生活が成就される関係もまた、キリストによって癒され、作り変えられます。例えば、フィリピのキリスト教徒の共同体が、ご自身を空にし、

しもべの姿をとられたキリストの心を持つようにと告げられたとき、これは単に個人への教えではなく、彼らの共同生活の益のための勧めでした。さらに、それは単に共同体としての彼ら自身の健康と幸福のためだけではなく、世界に御言葉を知らせるためでもありました。それは、受肉した方のしもべとしての立場を効果的に体現することを通して、御言葉を広めることでした。新約聖書のある箇所——ヨハネの手紙一 1:1-3 ——は、キリスト教共同体の生活は神の命の反映であると大胆に示唆しています。したがって、キリスト教徒の共同生活には、水平方向だけでなく垂直方向の次元があります。彼らは単に互いの交わりを楽しむのではなく、共に生きることは、父と御子イエス・キリストの命を分かち合うことなのです。

[51]

救い主はわたしたちを孤独から救い出し、友である限りなく多様な安心感の中へと導いてくださいます。福音書や使徒的説教の中で用いられた比喻は、キリストによってもたらされた秩序ある生活について示唆を与えています。それらの比喻は、集団的なものでもあり、個人的なものでもあります。花婿と花嫁、良い羊飼いの世話、ぶどうの木の成長と剪定、御体であるキリストの多様な活動と才能、家庭における家族生活、善き管理、サマリア人の優しい世話、癒し手であるキリストとの触れ合い、御父の見守る愛を思い起こさせます。主の晩餐の光の中で、御体であるキリストの比喻は、キリストの体である教会について、深い洞察と考察を呼び起こしてきました。

[52]

また、新約聖書において、教会が力強く成長し、秩序ある生活を送るための活動、例えば、新しい奉仕者の任命、あるいは共同体の決定や教えなどは、常に聖霊の働きを伴っていることを忘れてはなりません。聖霊は、私たちが互いに交わりと調和のうちに生きることを可能にします（使徒言行録 13:2、15:28、16:6-7、テモテへの第二の手紙 1:14）。聖霊は、この世における教会の働きを貫く目に見えない糸であり、私たちの心が御言葉を聞き、受け入れることを可能にし、御言葉を理解できるように照らし、御言葉を語る異言を与えてくださいます（ヨハネによる福音書 14:26、16:13-14、使徒言行録 4:31）。聖霊は、私たちが互いに、そして私たちの頭であるキリストと結びつけ、神の民に一貫した形と多様性を与えてくださいます。聖霊は、今ある民の中にあっても、そして将来あるであろう民のためにも、仕えるために来られたお方への奉仕に私たちすべてを招いてくださっています。